

第53回佐賀県人権・同和教育研究大会 分科会【集合・オンライン】

11月1日(金)唐津市、玄海町の5会場にて、第53回佐賀県人権・同和教育研究大会(分科会)を開催いたしました。

あいさつ(佐賀県教育委員会 甲斐 直美 教育長) 一部紹介

今は、誰もが容易に情報を発信、拡散することができる時代です。情報化の進展は、我々の日常の中で多くの恩恵をもたらしてくれている一方で、インターネット上での誹謗・中傷、差別扇動、悪質な動画の投稿など、部落差別をはじめとした人権侵害につながるケースも生み出しています。人権問題は、常に変化していく社会の中で起きるものですので、新たな事象や課題について常に学んでいく必要があります。

どんなに社会が変わろうとも、人権は、誰もが生まれながらにもっている、人間が人間らしく生きていくための普遍的な権利です。子どもたちには、人権についての確かな認識と主体的な判断力や行動力を身につけてほしいと願っています。他者も尊重しつつ、自分らしく考え、判断・行動し、幸せに暮らしてほしいと思っています。このことは、私たちおとも同じで、未来を担う子どもたちがこのような力をつけることができよう、先に道を進む者として、学びを深めてまいります。

一人一人の人権を共に認め合い、支え合う社会をつくろう！
いのちを守り 安心できるつながりの中で 人権文化の創造を
”進化”と”みらい”のふるさと 唐津市・玄海町の地から

11/18~12/6
オンデマンド
配信

佐同教だより

佐賀県人権・同和教育研究協議会

住所 佐賀市大和町大字川上 佐賀県教育センター 中研修室棟内

TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

あいさつ(佐同教会長 松本定) 一部紹介

私たちの生活の中には、まだ、多くの人権課題が残っており、社会の変革と技術の進展に伴い、新たな人権課題も生まれています。差別や人権侵害は、それを行う人がいるから起こります。法令に定められている「法の下の平等」を実現するためには、差別をなくすための一つ一つの取組の積み重ねが必要です。人権の学びを人ごとではなく自分ごととして学び、そして、高い人権意識と鋭い人権感覚のもと、人権啓発・教育の実践が重要です。

第1分科会 行動につながる学びづくり(人権啓発)会場【唐津市相知文化交流センター】(ホール)

- ① 部落差別解消に向けて教育・啓発・相談づくりをどのように進めているか、紹介し合います。
- ② 人権問題を解決するために、どのように人とのつながりをつくっているか、紹介し合います。
- ③ 正しい知識を広めるためにどのような活動をしているか、紹介し合います。

【実践報告Ⅰ】「子育てするなら みやき町！ ～子どもの居場所づくりのために～」

【実践報告Ⅱ】「誰もが認め合い、笑顔が輝くまち」であるために

【実践報告Ⅲ】「唐津を人権感覚あふれる町に」～唐津市における啓発活動を通して～

【参会者のアンケートより感想・意見等】

- ・子どもの居場所づくり、啓発活動等の現在の取組について情報を得ることができた。個人としては他部署との連携や民間・学校との連携を取りつつ、業務の効率化や軽減をどうやって実現するかが重要と考えました。現代社会は配慮事項が膨大で、本来の業務にどんどん自分のリソースが足りなくなってきました。余裕のなさがストレス社会の原因となり、人権侵害が発生しているように感じています。
- ・「唐津を人権感覚あふれる町に」の話の中で、公正採用選考における就職受験報告書の集計に驚いた。



学校では違反質問については必ず説明し、もしそういった質問があれば、「学校の指導により、その質問には答えられません」と指導します。しかし、毎年、違反質問が繰り返してあっているのが現状です。

みやき町の取組、キッズハウスやフリースクールは、貧困やネグレクト等家庭に困難を抱える子どもたちにとっても、より必要な居場所になり得ると思います。ただ、一時の施策でなく、その家庭へのアプローチも同時に取り組んでいかなければ、根本的な解決にはならないと感じました。

第2分科会 子ども支援・家庭支援(人権が尊重される環境づくり)

会場【玄海町町民会館】(文化ホール)

① 厳しい状況にある子ども・家庭の支援、学校や地域、関係機関による連携について交流しよう。

② 子どもたちが安心して過ごせる環境及び進路実現できる環境づくりについて学び合おう。

【実践報告Ⅰ】一人一人の存在を認め、ともに学び合う集団づくり ～大切なわたし、大切な友だち、みんなつながっているよ～

【実践報告Ⅱ】「みんなといっしょに学びたい」～充実した学校生活を送るための環境づくりをめざして～
【実践報告Ⅲ】佐賀農業高校における進路保障に対する支援体制づくり ～生徒一人ひとりの特徴を精一杯伸ばすことができる教育活動への取組～



【参会者のアンケートより感想・意見等】
・小学校の実践が特に興味深かったです。医療的ケア児と周囲の児童との関係づくりはすぐにできるものではなく、継続した取組があつてのことだと思えます。
・子どもの心を耕す活動を計画的に実践されており素晴らしいと思います。以前のように人権集会は全校で行い、子どもたちの思いを出させて、共有できるようにしたいと思っています。音読発表タイムは子どもの出番が多く、素晴らしいと思います。
・特色ある取組や探究活動により、課題解決だけでなく、他者を認め、尊重し合う力の育成を進めながら、一人ひとりに合わせたきめ細かい進路指導がされていることが素晴らしいと思います。能力育成による進路保障が、生徒の飛躍に繋がっていて素晴らしいと思います。
・発表を聞きながら、とても心が動かされました。みんなと過ごす時間は、かけがえのないものだと思えます。このお話を学校に持ち帰り、今後の学級経営に生かしていきたいと思えます。

・三つの提案が、それぞれ違う視点で発表され、学校全体で取り組むことの大切さ、個に応じることの大切さ、社会人になるという将来に向けてのきめ細やかな指導や支援の大切さなど、どれも勉強になりました。

第3分科会 子どもどうしをつなぐ仲間づくり(人権が尊重される人間関係づくり)
会場【唐津市文化体育館】(文化ホール)

① 子どもたちが、「見つめる」「語り合う(伝え合う)」「つながる」ために、どのような取組が有効なのかを明らかにしよう。

② 一人ひとりを大事にした仲間づくりのために、わたしたちが大切にしたいことは何かを明らかにしよう。

【実践報告Ⅰ】「互いをあたたかく認め合い、ともに支え合う名護屋っ子をめざして」～子どもたちが「つながる」取組を通して～
【実践報告Ⅱ】「Aさんの思いに寄り添った居場所づくり・仲間づくり」
【実践報告Ⅲ】「私も、Aさんみたいな演技がしたい」

【参会者のアンケートより感想・意見等】

・各学校独自の取組をしており、私も担任になったときは、クラスの人全員活躍できてサポートし合えるような雰囲気をつくりたいと思えました。

・様々な問題の根っこには、児童の自尊心の低さが窺える。自尊心を高めるためには、とにかく褒めることが大切であることを再認識することができた。

・3つの実践発表を聞き、改めて児童生徒が自分の存在感が認められる場がいかに必要か、考えるきっかけになりました。コロナ禍以降、一人でも教科の学習ができる環境は整ってきました。しかし、学校でできることは、学習その他のさまざまな活動を通して、クラスメイト、先生、他学年の生徒とのつながりを通して、自分が必要とされているんだ！と感じる場を

いかに提供し、自分は支えられている、自分は誰かを支えられる、そんな人としての生き方に影響を与えることができるかだと思えます。さまざまな手立てをとって、生徒が「学校っていいな」と感じられるような実践を積み重ねていきたいと思いました。

それぞれの学校の実態、子どもたちの生活環境、職員の経験年数の違いがある中で、子どもたちと向き合い、真摯に向き合われていることに、改めて子どもたちと対峙する素晴らしさを感じました。

3人の先生方の体験を聞き、校種や担当している子どもは違えど、「悩みは同じなんだ」と感じることができました。話に出ていた児童や生徒は、自分のクラスの児童と被るところもあり、こんなふうに接したらいいのだと、来週からの学びにもなりました。

第4分科会 豊かな生き方に学ぶ人権・部落差別解消のための学習(人権が尊重される学習活動づくり)

会場【唐津市肥前文化会館】(ホール)

① 差別の理不尽さに気づき、人権課題を自分自身のこととして考える人権・部落差別解消のための学習のあり方を考えていこう。

② 学びや出会いによって子どもたちに生まれた思いを、将来への展望・希望へとつなげ、行動や発信をしていくには、どのような実践が必要であるかを考えていこう。

【実践報告Ⅰ】自分ごととして考えるための人権学習
佐賀西高校における取組

【実践報告Ⅱ】生徒を中心にした平和学習
あなただけが今世界で起きていることを知っていますか

【実践報告Ⅲ】部落差別を解消するための学習を自分ごととして主体的に考えさせるには?
教科書無償制度を入口として

【参会者のアンケートより感想・意見等】

今、これだけ人権 同和教育に関する正しい知識を広めようとしている中で、意図的に差別をしようとする人はほばいないのではないかと思います。差別をする人は、知らず知らずのうちに差別をしてしまっているということが多いと思います。いろんな情報が飛び交う時代で、子どもたちと教育を共にする教員が正しい知識を身につけ、正しい教育をすることは必要不可欠だと改めて感じました。

小中高それぞれの校種の実践を聞き、教師自身が意識を高くもって生徒たちに教えていかなければいけないと、改めて確認できた。教師間の温度差を問題視されている方も多く、教師への研修の充実を図ることの重要性を感じた。

開会、基調「提案」、アイスブレイク、報告、近くの人の意見交換、質問・感想・意見、休憩、グループ討議など他人ごとでなく、自分ごととして参加できたので、実りある研修でした。普段の取組を見直して、身近にある教材を生かした人権・同和教育を考えてみようと思いました。

校種がいろいろあり、児童生徒の発達段階に応じて内容、方法を考えて設定していかなくてはと、改めて感じました。私は小学校に勤務しているので、特に「主体性」ということについて考えさせられました。グループ討議では、平和集会、人権集会等に関して様々な情報交換ができて、有難かったです。

第5分科会 市民活動・企業活動交流(人権のまちづくり)

会場【唐津市相知文化交流センター】(研修室A・B)

① 「語り合う」場をどのようにつくり出していけばいいのかを学び合おう。

② 「人権のまちづくり」の実現に必要なさまざまな情報を共有しよう。

③ 課題解決のために「困難」を乗り越え、「喜び」や「やりがい」に変えていった実践に学び、自分たちの生活にどう活かしていくか考え合おう。

【実践報告Ⅰ】「食」で人と人をつなぐ
ささえあいのまちづくり

【実践報告Ⅱ】「ま・まんでい」居場所をデザインする
主役たちの話し合いを満タンにする居場所づくり

【参会者のアンケートより感想・意見等】

ま・まんでいの活動について、世代を超えた関わり、無理なく温かい居場所づくり、本当に素敵な活動だと思いました。私は中学校社会科の教師で、今、社会科の授業は「社会に開かれた授業を」をテーマに展開しています。教室を飛び出して、「子どもたちに生きていく力を!」と考えると、ま・まんでいの活動は、まさに生きるのに必要なことを自然と伝えていけると感じました。

普段、職場では気づくことができない活動を知ることができてよかったです。「ふれない想いと行動が、夢を実現させる」がとても印象に残りました。現場に戻って、生徒に還元できたらなと思います。

各報告はそれぞれの想いを強く感じました。討議課題への参考となり、気を張らずに今後の人生に活

2024年度佐賀県人権保育研究集会

子どもの人権を「守り」「育む」保育

常磐会短期大学
ト田 真一郎

2024年度佐賀県人権保育研究集会

佐賀県人権保育研究集会が10月25日(金)～11月22日(金)の期間で、オンライン研修にて開催されました。常磐会短期大学のト田(しめだ) 真一郎さんに(子ども)の人権を「守り」「育む」保育というテーマでお話をさせていただきました。

(講演内容の一部抜粋)
人間にとって、自分の「居場所」があるということはとても重要なことなのです。

かしたいと思いました。
 ・どの報告もとても興味深く聞かせていただいた。特にままだの活動について、居場所づくりの大切さを学んだ。「好きだから」の思いでリーダーシップを取れたり、安定的に過ごせたり、心の声に素直になることの大事さを感じた。
 ・現実的に語り合う場をつくるのは難しい現状の中で、人と人のつながりを構築されている報告に感動しました。
 ・人は、誰しも、自分の居場所を必要としているんだと、改めて感じました。発表者の3名の方々の行動力が、そんな人たちを救っていることに素晴らしいさを感じました。私も、私にできることで、人の役に立ちたいと考えました。

反対に、人間にとって「居場所を失う」ということで、マイナスのインパクトは、いろいろな形で出てくるのです。健全な居場所が保障されること、健全な居場所を創り出す力を育むことは居場所を考える上で問われるべきこととして、大きなポイントの一つになっています。ただ、「現在の社会の中で居場所を見つけてよとする」と「すべての人に居場所がある社会を創ろうとする」とはイコールではないということを考える必要があります。

これからの社会は、今まで以上に多様な人が同じ空間の中で生きている社会に向かうと思われれます。だから、「人権」という価値が重要になり、子どもたちにはそういう社会が必要になってくるのです。

(講演内容の抜粋)

【オンライン研修 参加者のアンケートより感想】
 ・講演を聴き、これまでの自分の保育が一人ひとりを大切にしながら、と思いつつも、目の前のことに精一杯になり、多数派の中にはめ込む保育をしていたのではないかと反省した。これからますます多様化の進む社会になっていくと思われるので、再度、自分自身の価値観を見直し、若い保育士さんたちと共に学んでいこうと思った。

・いつの時代も女性や子どもの人権が守られず、不幸な歴史が繰り返されていると感じます。我々教員は彼らを守りつ

つ、育てていくことの大切さを感じます。私は教師であり、父親でもあるので、余計に感じるところです。人口が減っていく今、「子どもたちは『宝』だ!」と思つて、思いやりをもって育てていかなければならないと感じました。

・人権のトライアングルについて、詳しい内容や実践についての「集団づくり」として、具体的に説明していただいたので、保育の現場にいるものとして大変参考になりました。また、私たち自身のあり方として、「ユマニチュード」という新しい視点を示していただいたことも、新しい学びになりました。

・大人の視点から、子どもの思いを抑えてしまうことがあり、反省する。日々の生活を通して、互いを思いやる心を子どもたちの細やかな行動や言葉から、もっと広げてあげていきたい。

【2024年度 第2回実践交流会】の開催
 2025年1月14日(火)に福富ゆうあい館において、第2回実践交流会を開催(14:00～16:30)いたします。講師は上田 京子さん(佐賀県保護司会連合会 事務局長)にお願いしています。内容は、「更生保護」活動における人権課題への取組と行動化」ということで、罪や非行を犯した人たちが再び罪を犯すことがないように、人権に配慮した相談・支援等の活動に親身になって務めていらいっしやる保護司の方の実践の様子が伺えるはずですよ。是非、多くの方にご参加いただきたいと思います。